

「知の甲子園」で準V

PC上で経営手腕競う

屋代高付属中の生徒

屋代高校付属中学校2年生の廣石健悟君と松川航大君のチームが、全国の14歳〜20歳の学生がコンピュータ上で架空の会社を経営して経営手腕を競う「第17回知の甲子園」で準優勝した。同校チームの準優勝は2年連続。このほか同校からは3チームが入賞を果たした。

續りポートなどを分析しながら、最終的に商品価格や生産量、借入金などを決めて利益を競った。

松川君は「優勝を狙っていたので、うれしい半面悔しい」と不満足な表情。廣石君は「周

囲の協力で勝ち上げられた。優勝を目指して再挑戦したい」と話した。大会には付属中から同校生徒のみでつくる15チームと、屋代高校生との混合1チームが出場した。入賞3チームは、

△5位 山浦皓希・齊藤大樹(3年)▽6位 園田名佑太・宮脇彦(同)▽8位 小澤一步・松澤力(同)

大会は、公益社団法人「ジュニアアチーブメント日本」東京都が1998(平成10)年度から毎年開き、本年度は全国から約300チーム・1002人が出場。インターネット上で予め選と準決勝を勝ち抜いた上

大会は、公益社団法人「ジュニアアチーブメント日本」東京都に進んだ。

位8チームが3月27日

に東京で行われた決勝

に進んだ。

決勝は8チームが、それぞれパソコンを使って、共通課題の特殊なペンを販売する架空会社の経営方針をその場で定め、途中10回公開される他チームの業



準優勝した屋代高付属中2年の松川君(右)と廣石君



上位入賞の3チーム